

薬 害 を 追 う

田園の風物詩であった除草作業も、最近では除草剤の開発と普及でその姿が消えてきた。このような情勢で、除草剤が耕地生態系を変えるのではなかろうか、との論議もされている。しかし、農家が期待する作物の生育に充分に対応できる除草剤を真剣に求め、自ら農作業に対する体質を変えようとしていることも事実であろう。除草法の進歩は、剤の開発をもとにして、使用法の技術が確立されたからとみてよいであろう。しかし、2～3の除草剤を除いては、作物に対する作用性が充分に解明されたとはいえない事実もある。除草剤の使用法は、多数事例の確率によって裏付けされたものが多い。それは、温度、土性、水の行動、生育の強弱などの違いに対して、作物の生育抑制、枯死などの薬害を発現するような事例と結びつくような場合もある。最近の農作業は、機械化が進み、それは栽培の技術が規格化される方向を示している。機械化の技術は、手作業ほどの精度を期待することが難しい。発現した薬害を、作物の生育環境、状態、さらに作業精度の結果とのみ見ないで、剤のもつ基本的な作用として解明することが必要であろう。この探究には、種々の研究が進められ、また難しい生命の生化学的な探究でもあろう。しかし、その態度こそが剤の開発、使用法の基礎となるものと考えられ、使用法のみで除草法が成立したとは考えたくはない。殺草力に多少があっても、薬害の少ない剤が広く普及し、剤使用の体系を求めるのも、作物を育てる側の反映として受けとめている。

(農林省東北農試農業技術部長 木根淵旨光)

目 次

北海道における除草剤利用の現状 と今後の方向

1. 北海道における減反の方向…………… 2
2. 北海道での除草労力と今後の
 の問題点…………… 3
3. 雑草の草種と防除…………… 4
4. 処理方法と今後の発展性…………… 4
5. 要 約…………… 5

財団法人 日本植物調節剤研究協会
北海道支部

除草剤散布機と利用法

- はじめに…………… 6
1. 散布機からみた除草剤…………… 6
 2. 除草剤からみた散布機…………… 7
 3. 散布機と除草技術…………… 8

農業機械化研究所主任研究員

武 長 孝

昭和46年度秋冬作芝関係除草剤

試験成績概要……………10

財団法人 日本植物調節剤研究協会

昭和46年度冬作関係除草剤

試験成績概要……………15

財団法人 日本植物調節剤研究協会

新登録生育調節剤一覧……………18

農林省農政局植物防疫課

植調協会だより……………19